

## 「日本海」の名称について

海上保安庁海洋情報部 岩淵 洋

### 海の名前

もの名前は、他のものと識別する必要が生じたときに付与され、それが繰り返し用いられると定着する。一般には海そのものに特段の固有名は必要としない。それは空に名前がないのと同様に目の前の海に固有名を付与して識別する必要がないからである。

人間の移動が大規模になると、海を何らかの形で識別する必要が生じる。日本では社会の中心であった京都から見て、東海、南海、北海などの名前が用いられていた。その後、海における活動が盛んになると、初めて海に固有の識別名が必要となる。江戸時代には海運が盛んになり、航海が困難な海域として海に「灘」なる固有の識別名を付したが、鎖国下で大航海をすることがなかったことから、日本海のような規模の海に固有名を付与して識別する必要はなく、一般的な呼び名である「北海」が用いられたに過ぎない。

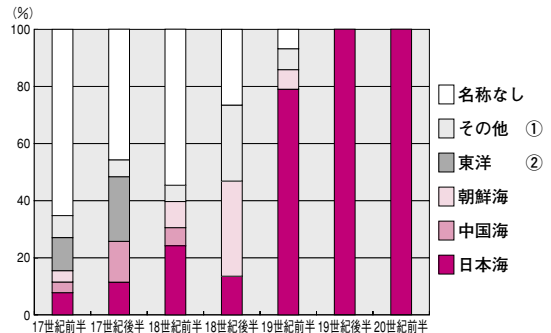
### 日本海の由来

ヨーロッパでは15世紀頃から大航海が行われ、海に識別名を付与する必要性も増大していく。当初は極東地域の知識は乏しく、日本海についても名前がない地図が大部分であり、名前を付された数少ない地図では、中国海、日本海、朝鮮海、オリエント海など様々な呼称であった。京都を中心とした「北海」の名も、宣教師らによってヨーロッパに伝えられる。17世紀前半にヨーロッパで作られた図の中にはOCEANO BOREALE（北海）、OCEANO BORIALE DEL GAPPONE（日本北海）等の名前もあるが、日本の鎖国とともに世界から忘れられてしまう。図は日韓以外で作成された地

図における当該海域の呼称の変遷を示したものである。地理的な知識が増大するに伴って、この海が中国や朝鮮からはるか遠く北に広がっていることが理解され、世界での呼称は「日本海」に収斂し、日本が鎖国していた18世紀末～19世紀初めにかけて、ヨーロッパで単一の呼称として定着する。

日本国内では、18世紀の知識（地名等）と19世紀の技術（伊能忠敬の測量）をもとに幕府が作成した地図には「朝鮮海」と記載されているが、これがシーボルトによってオランダに持ち出されて出版される時には、19世紀にヨーロッパで定着していた呼称「日本海」に置き換えられている。また、明治初頭になると、日本では過剰なナショナリズムを背景に、太平洋を「大日本海」と呼んだ時もあり、必然的に日本列島の北西に広がる海を「朝鮮海」としたようである。しかし、日本においても19世紀後期には国際的に用いられている呼称の日本語訳である「日本海」に収斂していく。

日本と朝鮮半島以外で作成された地図における呼称の推移



① 北方海、朝鮮半島側が朝鮮海／東側が日本海など ② Oriental Ocean, Oriental Sea など

### 現代における海の名前

航海の安全を目的として1921年に設置された国

際水路機関は、航海者に提供する情報の標準化を進めてきた。この一環として、海の呼称とその範囲に関する統一的ガイドラインとして「大洋と海の境界」を作成している。ここで、これまで漠然としていた海の名前とその範囲について、国際的にある種の定義がなされることになったのである。「大洋と海の境界」は1953年の第3版以降かなりの時間がたったことから、1977年に改訂作業が始まり1986年には改訂案が作られた。この改訂案については、日本海についてはどの国からも異論はなかったが、ペルシャ湾等の呼称について異論が出され加盟国過半数の賛成が得られずに持ち越しとなった。1998年に国際水路機関事務局は、2003年までに「大洋と海の境界」を改訂すべく作業を再開した。

#### ■ 韓国の「日本海」呼称排除運動 ■

1992年に開催された第6回国連地名標準化会議において、韓国政府は突如「『Japan Sea』の呼称は、日本が植民地主義政策の一環として押しつけたものであって不当である。古来用いられてきた『East Sea』とすべき」と主張した。以来、機会あるたびにこの主張を繰り返し、国際水路機関が「大洋と海の境界」の改訂を決定してからは、「Japan Sea」の呼称を排除するか、少なくとも「East Sea/Japan Sea」と併記させることを目標としている。

日本海の呼称を排斥する理由の一つとして「複数の国が関わる海の名前に特定の国の名前が使われるのは例がない。日本は所有の概念で『日本海』と呼んでいる」と主張する。これに関係するためか、韓国は「かつてはKorea Seaが普及していた。日本も朝鮮海を使っていた（認めていた）のだから（Korea Seaではなく）East Seaにすべき」という理解しがたい主張をし、韓国の新聞では毎月のように「Korea Seaと書かれた18世紀の地図が新たに発見」される。一部のミスリードによっ

て、韓国国民は「日本海の名前は日本が勝手につけたもの」と信じているようだ。韓国マスコミは「東海は国歌にうたわれる民族の誇り」なのに、「日帝が押しつけた名前が世界で用いられている間違った現実」があり「民族の尊厳にかけて正さなければならない」と言う。

#### ■ 日本海呼称に対する国際水路機関の対応 ■

国際水路機関は「大洋と海の境界」の検討にあたって、一時は韓国の主張を受けて、East Seaなる呼称を盛り込んだ案を作成した。これに対し日本は「日本海の呼称は18世紀末以降国際的に定着している。韓国の主張は歴史的に誤りで、『East Sea』なる呼称は韓国の海図でも1995年に初めて登場したものである。突如持ち出した呼称を国際機関のガイドラインに採用することは、地名の統一というそもそもの目的に反するばかりでなく、国際社会に悪しき前例を作るものである」として反対した。両国の意見の対立を受けて、国際水路機関は2002年8月に「大洋と海の境界」から、日本海にかかるページを白紙とした案をもって加盟各国の投票に委ねた。9月になって交代した国際水路機関の新理事会は日本からの意見および日本からの問題提起に呼応して加盟各国から寄せられた「白紙とした案は適当ではない」との意見を受け入れて、「大洋と海の境界」改訂案とその投票を撤回するに至った。韓国は、国際水路機関が「大洋と海の境界」改訂案を撤回したのは「日本の執拗なロビー活動によるもの」と強く反発している。しかし、新理事会が当初案を撤回したのは、執拗なロビー活動によるものではなく、永年の信頼関係を背景としてこの問題を憂慮する加盟国の意見の影響が大きい。公式の場で事実と反する主張をすることは、長期的には国の利益を損なうものであろう。そのことを韓国の方々为抓手に願ってやまない。